

エコアクション21
環境経営レポート
〔令和4年度〕

(期間) 令和4年4月1日 ～ 令和5年3月31日



経営理念

- 1.社員と企業の満足
- 1.お客様の満足
- 1.地域社会の満足

静岡県富士市柚木105番地の1

ダイエー工業株式会社

代表取締役 飯田昌昇

TEL 0545-63-0017

FAX 0545-63-0171



目次

1. 組織の概要	2 ~ 4
2. 対象範囲	5, 6
3. 環境経営方針	7
4. SDG s 宣言	8
5. 環境経営目標	9
6. 環境経営計画	10
7. 環境経営計画に基づき実施した取組内容	11
8. 環境経営目標の実績・取組結果とその評価	12 ~ 14
9. 環境経営計画の実績・取組結果とその評価	15
10. 次年度の環境経営目標及び環境経営計画	16, 17
11. 環境関連法規などの遵守状況の確認及び評価の結果 ，並びに違反，控訴などの有無	18
12. 環境事故対策と訓練状況	19
13. 代表者による全体の評価と見直し・指示	20

1. 組織の概要

- 1) 事業所名 ダイエー工業株式会社
- 2) 代表者名 代表取締役社長 飯田昌昇
- 3) 事業所所在地 ■本社：静岡県富士市柚木105番地の1
 ■前田作業所：静岡県富士市前田969番地の4
- 4) 事業活動の内容 ■事業内容：総合建設業
 ■法人設立年月日：昭和42年12月21日
 ■資本金：2,160万円
 ■建設業許可番号：静岡県知事許可(特-3)第034234号
 ■建設業許可の種類：
 土木工事、とび・土工工事、舗装工事、浚渫工事、石工事、
 解体工事、建築工事
 ■許可の有効期間：令和4年2月15日から令和9年2月14日まで
 ■産業廃棄物収集運搬業許可番号：静岡県知事第02201135262号
 ■収集運搬業許可の種類：
 廃プラスチック、ゴムくず、金属くず、木くず、
 ガラスくず・コンクリートくず及び陶器くず、がれき類
 ■許可の有効期間：令和4年6月7日から令和9年6月6日まで
 ■有資格者：
- | | |
|-------------|-----|
| 1級土木施工管理技士 | 8名 |
| 1級建築施工管理技士 | 1名 |
| 1級建設機械施工技士 | 1名 |
| 1級舗装施工管理技術者 | 4名 |
| 2級土木施工管理技士 | 6名 |
| 2級建設機械施工技士 | 5名 |
| 登録機械土工基幹技能者 | 6名 |
| 移動式クレーン免許 | 6名 |
| 車両系技能講習 | 10名 |
- ※令和5年3月31日現在（重複有）

5) 事業の規模 (令和5年3月31日現在)

活動規模	平成30年度	平成31年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
	(H30/4-H31/3)	(H31/4-R2/3)	(R2/4-R3/3)	(R3/4-R4/3)	(R4/4-R5/3)
売上高	790百万円	860百万円	720百万円	934百万円	1028百万円
従業員	20人	20人	21人	20人	20人
(本 社) 床面積	338.58m ²	338.58m ²	338.58m ²	338.58m ²	338.58m ²
前田作業所 敷地面積	969.18m ²	1,743.98m ²	1,743.98m ²	1,743.98m ²	1,743.98m ²
作業所床面積	29.7m ²	29.7m ²	29.7m ²	29.7m ²	29.7m ²

6) 事業年度 4月1日～翌年3月31日

7) 各種認証 エコアクション21 (認証・登録番号0005355)

8) 環境管理責任者及び事務局

環境管理責任者 大石文丈

環境管理事務局 伊藤和成

連絡先 TEL : 0545-63-0017 FAX : 0545-63-0171

E- Mail : info@diei.jp

9) 産業廃棄物収集運搬実績

※自社運搬のみで他社の廃棄物は運搬していません。

10) 保有重機・車両の状況

(令和5年3月31日現在)

建設重機

機種	メーカー	形式	性能	燃料
クローラクレーン	コベルコ	7200	200 t 吊	軽油
クローラクレーン	石川島	CCH1800	180 t 吊	軽油
クローラクレーン	石川島	CCH650	65 t 吊	軽油
クローラクレーン	石川島	CCH650	65 t 吊	軽油
油圧ショベル	C A T	330D	1.2m ³	軽油
油圧ショベル	C A T	330D	1.2m ³	軽油
油圧ショベル	C A T	320D	0.7m ³	軽油
油圧ショベル	日立	ZX200-3	0.7m ³	軽油
油圧ショベル	日立	ZX200-3	0.7m ³	軽油
油圧ショベル	日立	ZX200-5B	0.7m ³	軽油
油圧ショベル	住友建機	SH200-7	0.7m ⁴	軽油
ブルドーザー	C A T	D6K2	14t	軽油
土質改良機	コマツ	BZ210-1	40~150m ³ /h	軽油
タイヤショベル	T C M	L35	3.5m ³	軽油

車両 (工事用車両)

機種	メーカー	車両番号	性能	燃料
トラクター	三菱	沼津100は578	26.50L	軽油
重トレーラー	ユソーキ	沼津100ゆ24	33 t 積	-
トラクター	日野	富士山103は936	12.91L	軽油
重トレーラー	東急	沼津11ち164	28 t 積	-
ユニック付トラック	三菱	沼津11な7289	7t積	軽油
ユニック付トラック	日野	富士山103さ6846	2.25t積	軽油
ユニック付トラック	イズズ	沼津11そ6546	2t積	軽油
散水車	イズズ	富士山803さ1700	4m ³	軽油
トラックWキャブ	日野	富士山403す6936	2.0 t 積	軽油
トラックWキャブ	三菱	沼津403さ7869	1.45 t 積	軽油
トラックWキャブ	日野	富士山403す5020	2.0 t 積	軽油
小型ダンプ	日野	富士山403す1644	3 t 積	軽油
小型ダンプ	三菱	沼津400す4797	2 t 積	軽油
軽トラック	三菱	沼津481き553	0.35 t 積	ガソリン

車両 (乗用車)

機種	メーカー	車両番号	総排気量	燃料
普通ワゴン	トヨタ	富士山503ぬ7998	1.49L	ガソリン
普通ワゴン	ホンダ	富士山503ち5714	1.49L	ガソリン
普通ワゴン	トヨタ	富士山303に9528	1.79L	ガソリン
普通ワゴン	トヨタ	富士山503ち220	1.79L	ガソリン
軽バン	ダイハツ	富士山481う6339	0.65L	ガソリン
軽バン	ダイハツ	富士山481き4774	0.65L	ガソリン
軽バン	三菱	富士山481い8687	0.65L	ガソリン
普通バン	日産	沼津403う3088	1.78L	ガソリン
普通ワゴン	トヨタ	富士山503ね1013	1.98L	ガソリン
軽バン	スズキ	富士山581つ3399	0.65L	ガソリン
普通バン	トヨタ	富士山403す5881	2.98L	軽油

2. 対象範囲，レポートの対象期間及び発行日

1) 認証登録範囲：

本社、建設現場、前田作業所、車両・重機の全組織・全活動・全従業員を対象

2) レポートの対象期間： 令和4年4月1日～令和5年3月31日

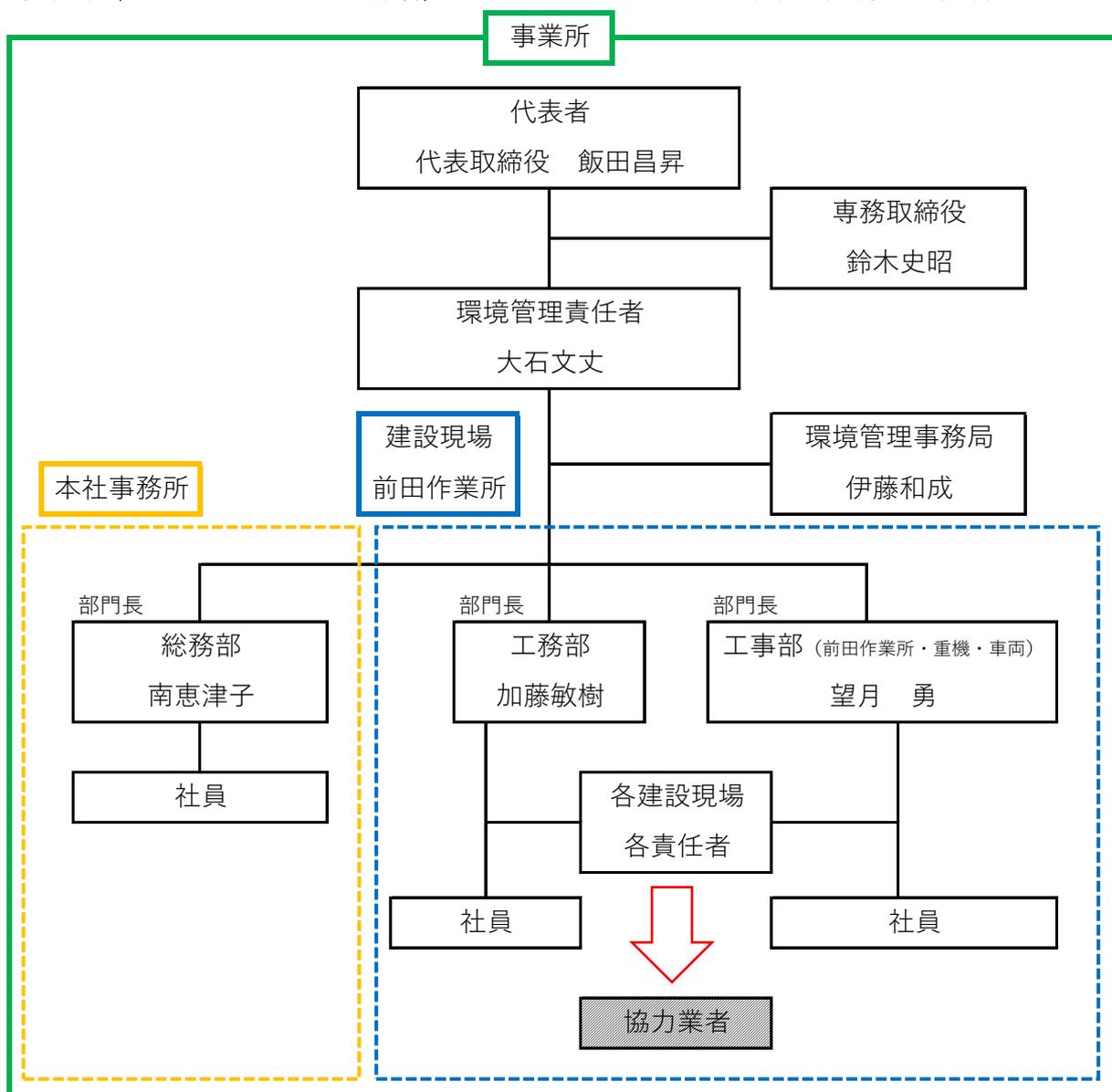
3) レポートの発行日： 令和5年7月1日

4) 実施体制：

1.実施体制表

事業所（エコアクション21全部署）

令和4年4月11日更新



2.役割・責任・権限

役割・責任・権限	
代表者 代表取締役 飯田昌昇	<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営に関する統括責任者 ・環境経営における課題とチャンスの明確化 ・環境経営システムの実施に必要な人・設備・費用・時間・技能・技術者を準備 ・環境管理責任者を任命 ・環境方針の策定・見直し及び全従業員へ周知 ・環境目標・環境活動計画書を承認 ・代表者による全体の評価と見直しと指示 ・環境活動レポートの承認
環境管理責任者 大石文丈	<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営システムの構築・実施・管理 ・環境関連法規等の取りまとめ票を承認 ・環境目標・環境活動計画書・取組み状況の評価・見直しを確認 ・環境活動の取組結果を代表者へ報告 ・環境活動レポートの確認
環境管理事務局 伊藤和成	<ul style="list-style-type: none"> ・環境管理責任者の補佐 ・環境負荷の自己チェック及び環境への取組みの自己チェックの実施 ・環境目標・環境活動計画書原案の作成 ・環境活動の実績集計 ・環境関連法規等の取りまとめ票の作成 ・環境関連法規等の取りまとめ票に基づく遵守評価の実施 ・環境関連の外部コミュニケーションの窓口 ・環境活動レポートの作成・公開
各部門長	<ul style="list-style-type: none"> ・自部門における環境経営システムの実施 ・自部門における環境方針の周知 ・自部門に関連する環境活動計画の実施及び達成状況の報告 ・自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施
各現場責任者	<ul style="list-style-type: none"> ・自現場における、環境目標及び環境活動計画の実施 ・環境への取組の協力を要請
全社員	<ul style="list-style-type: none"> ・環境方針の理解と環境への取組みの重要性を自覚 ・決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加
協力業者	<ul style="list-style-type: none"> ・環境経営活動への取組に協力

3. 環境経営方針

【環境経営の課題とチャンス】

資源の枯渇問題に加えて、地球温暖化が進み、北極圏や南極大陸の氷床の崩壊に起因する海水面の上昇、気候の亜熱帯化、異常気象による災害の増加が憂慮されています。

CO₂の排出量の増加とメタン・フロン等の温室効果ガスの増加が原因と考えられます。

さて、当社の化石燃料使用におけるCO₂の排出量は事業全体の96%を超えます、化石燃料の軽油の使用量が非常に多いことが環境の負荷に関し大きな影響があるものと考えています。

環境経営方針の最大の課題は化石燃料削減と考えています。また、経営上においても化石燃料の削減は「大きな原価削減の機会」と捉え、従来から強く提唱してきました。

次の環境経営方針を全従業員に周知徹底するとともに、目標・活動計画を定め、定期的に見直し、継続的な改善に努め、環境経営活動のレポートを社外に公表します。

【環境経営方針】

1) 環境経営に対して、次の環境方針に定めて取組みを継続します。

- ① 電力、燃料の消費に伴う二酸化炭素排出量の削減
- ② 建設資材の省資源、廃棄物の3R（減量、再利用、再生利用）の推進
- ③ 水資源の有効活用と節水
- ④ 工事現場での騒音等、現場周辺環境への配慮
- ⑤ 地域貢献活動の推進（環境活動への参加、普及）

2) 環境関連法規制や当社が約束したことを遵守します。

制定日 平成21年12月11日

改訂日 令和4年9月1日(第7版)

ダイエー工業株式会社
代表取締役 飯田昌昇

4. SDGs宣言



ダイエー工業株式会社SDGs宣言

当社は国連が提唱する「SDGs(持続可能な開発目標)」に賛同し、持続可能な社会の実現に向けて取り組んでまいります。

令和5年1月31日
ダイエー工業株式会社
代表取締役 飯田 昌昇

社会課題解決



事業を通じてサプライチェーンの強化を図り、持続可能な地域経済の発展に貢献します

【具体的な取り組み】

- ・ 海岸、河川工事を通じて、地域の協力業者とノウハウを共有し拡大を図っていきます。
- ・ 地元自治体と災害協定を締結しており、災害時には地域のために率先して復旧活動を行います。

環境保全



事業活動を通じた環境負荷低減に取り組み、環境保全に貢献します

【具体的な取り組み】

- ・ エコアクション21を認証取得しており、環境マネジメントシステムが構築されています。
- ・ 環境対策対応重機の導入促進や、省エネルギー車両の継続導入による省エネルギー化に取り組めます。
- ・ 工事の際の廃棄物削減、再利用、分別、リサイクルの徹底を図ります。

労働環境の整備



働きやすい職場環境づくりと、人材育成を通じて従業員が働きがいをもてる環境を整備します

【具体的な取り組み】

- ・ 若年層の採用増加、女性の現場監督の増加、高齢者の雇用増加を行う等、多様な人材が活躍できる環境を整備します。
- ・ 全従業員の健康管理の継続と安全教育の徹底、そして有給休暇取得を促進させ、働きやすい職場環境を構築します。
- ・ 従業員への資格取得促進による、有資格者の増加を図ります。

地域貢献・社会貢献



さまざまな貢献活動を通じて、持続可能な社会の実現に努めます

【具体的な取り組み】

- ・ 地元で開催されるイベントに寄付や協賛を行い、地域活動に貢献します。
- ・ 自治体が主催する子ども就職体験イベントや、地域の子ども会や祭りへの協力を行う等、次世代を担う地域の子ども達を応援します。



SDGsとは、Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標)の略称で、2015年9月に国連で採択された2030年までの国際目標。持続可能な社会の実現に向けて17のゴール(目標)と169項目のターゲット(達成基準)から構成されています。

5. 環境経営目標

1)年間目標

当社では負荷の実績を考慮し、令和3年4月～令和4年3月までの1年間の負荷を基本値として目標値（1%の削減）を設定します。 制定日R4.6.1

		単位	基本値 R3年度 (R3/4-R4/3)	目標値 R4年度 (R4/4-R5/3)
温室効果ガス排出量	二酸化炭素	kg-CO ₂	494,388	489,444
売上当りのCO ₂ 排出量	CO ₂ の排出量/売上高	kg-CO ₂ /百万円	529	524
エネルギーの消費	事務所購入電力	kWh	19,871	19,672
	現場の購入電力	kWh	9,081	8,990
	ガソリン使用量	ℓ	18,106	17,925
	車両走行距離	km/ℓ	11.82	11.94
	軽油使用量	ℓ	170,286	168,583
	重機稼働量	ℓ/h	14.42	14.28
	車両走行距離	km/ℓ	4.90	4.95
廃棄物排出量	一般廃棄物	t	0.42	0.42
	産業廃棄物	t	744.93	737.48
	処分量t/完工高(百万)	t/百万円	0.88	0.87
水資源投入量	上水	m ³	200.0	198.0

2)中長期目標(令和4年度より3か年)

当社では負荷の実績を考慮し、令和3年4月～令和4年3月までの1年間の負荷を基本値として、中期目標は令和4年4月～令和7年3月まで3年間の負荷削減率3%とした目標値を設定しました。（毎年1%の削減を目標とし3年間で3%の削減を目指します）

制定日R4.6.1

		単位	基本値 R3年度 (R3/4-R4/3)	目標値 R4年度 (R4/4-R5/3)	目標値 R5年度 (R5/4-R6/3)	目標値 R6年度 (R6/4-R7/3)
温室効果ガス排出量	二酸化炭素	kg-CO ₂	494,388	489,444	484,500	479,556
売上当りのCO ₂ 排出量	CO ₂ の排出量/売上高	kg-CO ₂ /百万円	529	524	518	513
エネルギーの消費	事務所購入電力	kWh	19,871	19,672	19,474	19,275
	現場の購入電力	kWh	9,081	8,990	8,899	8,809
	ガソリン使用量	ℓ	18,106	17,925	17,744	17,563
	車両走行距離	km/ℓ	11.82	11.94	12.06	12.17
	軽油使用量	ℓ	170,286	168,583	166,880	165,177
	重機稼働量	ℓ/h	14.42	14.28	14.13	13.99
	車両走行距離	km/ℓ	4.90	4.95	5.00	5.05
廃棄物排出量	一般廃棄物	t	0.42	0.42	0.41	0.41
	産業廃棄物	t	744.93	737.48	730.03	722.58
	処分量t/完工高(百万)	t/百万円	0.88	0.87	0.86	0.85
水資源投入量	上水	m ³	200.0	198.0	196.0	194.0

※ 購入電力のCO₂排出係数は 令和3年度実績（R5/1/24公表）東京電力(株)調整後排出係数0.457kg-CO₂/kWhとする。

6. 環境経営計画

環境負荷の削減を達成するため、環境経営計画を次のように策定します。

1) 二酸化炭素の排出抑制

事務所の省エネ活動	空調の適温化を徹底する。(冷房26度程度、暖房23度程度)
	空調及び照明を必要な場所・時間を限定して行う。
	夜間・休日は、パソコン・プリンター等の主電源を切る。
	ブラインドを利用して室温の調整を行う。
	不要な照明の消灯
自動車等の省エネ活動	エコ運転に配慮する。(急発進・急加速や空ぶかし、待機中のエンジン停止)
	タイヤの空気圧を定期的に確認し、適正値を保つように努める。
	排気ガス・騒音のレベルを抑えるため適正な車輛整備を行う。
建設機械等の省エネ活動	アイドリングストップ等、エコ運転(必要以上の回転や空ぶかしを排除する、作業の中断時は必ずエンジンを停止)を徹底する。
	建設機械は作業内容に最も適した機械を採用する。
	建設機械は新規に購入する時に効率や環境負荷等を検討する。
	排ガス対策対応型及び低騒音型リース機械を採用する。
	建設機械等の自主点検整備を行う。

2) 廃棄物の排出抑制、リサイクル、適正処理

紙使用量の抑制	再生紙を使用し、両面印刷・両面コピーを徹底する。
	使用済み用紙の裏紙を利用する。
リサイクルの促進	分別回収ボックスの適正配置により、ごみの分別を徹底する。
	シュレッダーの使用を機密文書等に限る。
廃棄物等の適正処理	木材、アスファルト・コンクリート塊、汚泥、残土等の建設副産物の削減、再利用、分別、リサイクルに取り組む。
	廃棄物管理票(マニフェスト)をもとに廃棄物の適正な処理を確認する。

3) 水資源等の抑制

水資源の節約	事務所の節水に努める。(上水道の使用は水栓をこまめに閉める)
	重機洗車時の節水に努める。

4) 環境保全のための仕組み及び体制の整備および教育

環境関連法規等遵守	法規制等の最新情報を常に入手し、改正点等を確認する。
実施体制の構築等	環境経営システムを実行するに当たり、役割分担や責任、権限等を明確にする。
	環境保全活動等の取組みに当たり、担当者、あるいは組織を明確にする。
環境コミュニケーション	環境保全活動に必要な情報やその実績、評価結果等を内部に周知する。
	外部からの意見や苦情、問い合わせ等を受付け、対応する仕組みを整える。
	環境保全活動に、積極的に参加する。
従業員等への教育	従業員に環境意識の向上や、環境保全活動に必要な教育を行う。
	安全パトロールに際し、環境への取組のチェックを行う。

7. 環境経営計画に基づき実施した取組内容

(R4.4.1～R5.3.31)

【R4年度】 環境経営計画表 (R4年度取組)				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考	
		具体的環境活動目標	責任者	担当者													
1) 二酸化炭素の排出抑制																	
事務所の省エネ活動	空調の適温化を徹底する。(冷房26℃程度、暖房23℃程度)		大石	全員													結果を把握する
	空調及び照明を必要な場所・時間に限定して行う。		大石	全員													年間を通じて取り組む
	夜間、休日は、パソコン、プリンター等の主電源は切る。		大石	全員													年間を通じて取り組む
	ブラインドを利用して室温の調節を行う。		大石	全員													購入電力200Vを削減する
	不要な照明の消灯を行う。		大石	全員													年間を通じて取り組む
自動車等の省エネ活動	エコ運転に配慮する。(急発進・急加速や空ぶかし、待機中のエンジン停止)		大石	全員												年間を通じて取り組む	
	タイヤの空気圧を定期的に確認し、適正値を保つ、機械の不調の修理点検に努める。		大石	全員												年間を通じて取り組む	
	排気ガス・騒音のレベルを抑えるため適正な車検整備を行う。		大石	全員												年間を通じて取り組む	
建設機械等の省エネ活動	アイドリングストップ等、エコ運転(必要以上の回転や空ぶかしを排除する、作業の中断時のエンジンを停止)を徹底する。		大石	現場従事者												年間を通じて取り組む	
	建設機械は作業内容に最も適した機械を採用する。		大石	現場責任者												年間を通じて取り組む	
	建設機械は新規に購入する時に効率や環境負荷等を検討する。		大石	環境管理事務局												購入時検討	
	排ガス対策対応型及び低騒音型リース機械を採用する。		大石	現場責任者												年間を通じて取り組む	
	建設機械等の自主点検整備を行う。		大石	現場責任者												年間を通じて取り組む	
2) 廃棄物の排出抑制、リサイクル、適正処理																	
紙使用量の抑制	再生紙を使用し、両面印刷・両面コピーを徹底する。		依田	全員												年間を通じて取り組む	
	使用済み用紙の裏紙を利用する。		依田	全員												年間を通じて取り組む	
リサイクルの促進	分別回収ボックスを適正に配置し、ごみの分別を徹底する。		依田	全員												年間を通じて取り組む	
	シュレッダーの使用は機密文書等に限る。		大石	全員												年間を通じて取り組む	
廃棄物等の適正処理	木材、アスファルト・コンクリート塊、汚泥、残土等の建設副産物の削減、再利用、分別、リサイクルに取り組む。		大石	現場責任者												年間を通じて取り組む	
	廃棄物管理票(マニフェスト)をもとに廃棄物の適正な処理を確認する。		大石	現場責任者												年間を通じて取り組む	
3) 水資源等の抑制																	
水資源の節約	無駄な水の使用を無くす。(上水道の使用は水栓をこまめに閉めて、節水に努める)		大石	全員												年間を通じて取り組む	
	重機洗車時の節水に努める。		大石	現場従事者												年間を通じて取り組む	
4) 環境保全のための仕組み・体制の整備および教育																	
環境関連法規等遵守	法規制等の最新情報を常に入手し、改正点を確認する。		依田	環境管理事務局												年間を通じて取り組む	
実施体制の構築等	環境経営システムを実行するに当たり、役割分担や責任、権限等を明確にする。		依田	環境管理事務局													
	環境保全活動等の取組みに当たり、担当者、あるいは組織を明確にする。		大石	環境管理事務局												情報伝達については徹底する	
環境コミュニケーション	環境保全に必要な情報や実績、評価結果等を内部に周知する。		依田	環境管理事務局												定期的な伝達	
	外部からの意見や苦情、問い合わせ等を受け付け、対応する。		大石	環境管理事務局													
従業員等への教育	環境保全活動に積極的に参加する。		依田	環境管理事務局													
	従業員に環境意識の向上や、環境保全活動に必要な教育を行う。		大石	環境管理事務局												定期的な開催	
	安全パトロールに際し環境負荷の低減チェックを行う。		大石	環境管理事務局												安全パトロールの同行は確実に実施する	

8. 環境経営目標の実績・取組結果とその評価

1) 環境経営目標・活動実績及び評価

当社では環境への負荷の目標と実績を考慮し、令和3年度の1年間の負荷を基本値とし、令和4年度の負荷削減率と目標値を設定し、評価を行いました。

※ 購入電力のCO₂排出係数は 令和3年度実績 (R5/1/24公表) 東京電力(株)調整後排出係数0.457kg-CO₂/kWhとする。(活動実績)

【評価結果は次の通り表示します】

削減 (-20%以上 ◎) (0~-20%未満 ○) 増加 (0%以上~20% △) (20%以上 ×)

<全社>

(令和4年4月1日~令和5年3月31日)

項目	単位	基本値 R3年度 (R3/4-R4/3)	削減 率 年間 (%)	目標値 R4年度 (R4/4-R5/3)	活動実績 R4年度 (R4/4-R5/3)	対目標 比率	評価	考察	
温室効果ガス 排出量	二酸化炭素排出量	kg-CO ₂	494,388	1.0	489,444	380,375	-22.3%	◎	目標が達成されている
売上高当りの CO ₂ 排出量	CO ₂ の排出量/売上高 (百万円)	kg- CO ₂ /百万 円	529	1.0	524	370	-29.4%	◎	目標が達成されている
エネルギーの消 費	事務所購入電力	kWh	19,871	1.0	19,672	19,095	-2.9%	○	目標が達成されている
	現場の購入電力	kWh	9,081	1.0	8,990	13,426	49.3%	×	電気を使う現場事務所が増えたと考えられる。
	ガソリン使用量	ℓ	18,106	1.0	17,925	14,703	-18.0%	○	目標が達成されている
	車両走行距離	Km/ℓ	11.82	-1.0	11.94	13.58	-13.8%	○	目標が達成されている
	軽油使用量	ℓ	170,286	1.0	168,583	128,394	-23.8%	◎	重機土工工事が減少したと考えられる。
	重機稼働量	ℓ/h	14.42	1.0	14.28	12.14	-15.0%	○	目標が達成されている
	車両走行距離	Km/ℓ	4.9	-1.0	4.95	5.81	-17.4%	○	目標が達成されている
廃棄物排出量	一般廃棄物	t	0.42	1.0	0.42	0.31	-25.4%	◎	目標が達成されている
	産業廃棄物	t	744.93	1.0	737.48	723.67	-1.9%	○	目標が達成されている
	処分量 t/完工高 (百万)	t/百万 円	0.88	1.0	0.87	0.70	-19.7%	○	目標が達成されている
水資源投入量	上水	m ³	200.0	1.0	198.0	164.0	-17.2%	○	目標が達成されている

2) 過去の環境経営目標の実績推移

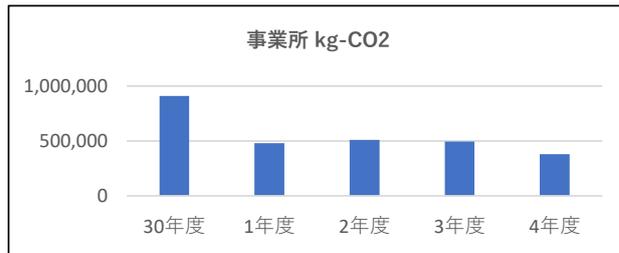
直近5年間の環境負荷に対する推移

【環境負荷のグラフ】

CO₂搬出量(30年度～4年度)

CO ₂ 搬出量	単位	30年度	1年度	2年度	3年度	4年度
事業所	kg-CO ₂	908,951	478,938	509,852	494,388	380,375
計	kg-CO ₂	908,951	478,938	509,852	494,388	380,375
30年(100)対比	%	100	53	56	54	42

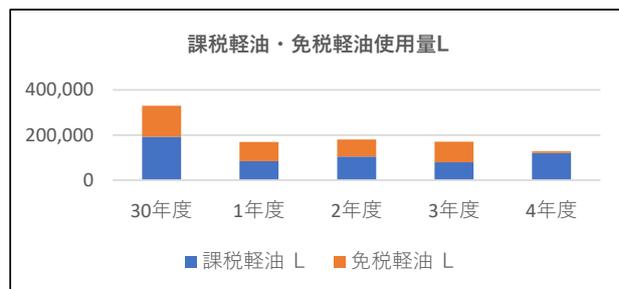
二酸化炭素排出量は軽油の使用量に左右されるため、工事の種類、作業の大きさによって変化する特性がある。



軽油使用量(30年度～4年度)

軽油使用量	単位	30年度	1年度	2年度	3年度	4年度
課税軽油	L	192,042	84,015	104,942	79,006	120,844
免税軽油	L	137,330	85,560	75,680	91,280	7,550
計	L	329,372	169,575	180,622	170,286	128,394
30年(100)対比	%	100	51	55	52	39

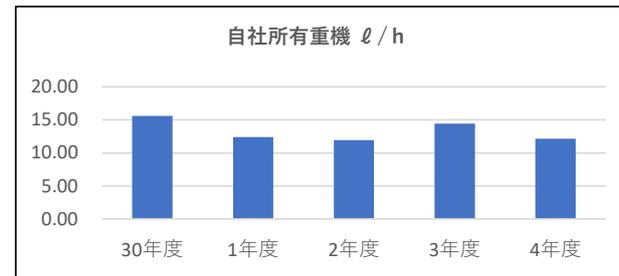
軽油の使用量は29年度に対し0.59倍でしたが、1年度に対し1.00倍でした。工事の種類、作業の大きさによって変化する特性があると考えられる。



軽油重機稼働効率(燃費) (30年度～4年度)

軽油重機稼働量	単位	30年度	1年度	2年度	3年度	4年度
自社所有重機	ℓ/h	15.60	12.40	11.93	14.42	12.14
計	ℓ/h	15.60	12.40	11.93	14.42	12.14
30年(100)対比	%	100	79	76	92	78

工事の種類によって、重機の種類が変化します。特長があるので評価は難しいですが、2年度より増加しています。



軽油自動車走行距離(燃費) (30年度～4年度)

車両走行距離	単位	30年度	1年度	2年度	3年度	4年度
軽油自動車	km/ℓ	7.30	4.73	4.46	4.90	5.81
計	km/ℓ	7.30	4.73	4.46	4.90	5.81
30年(100)対比	%	100	65	61	67	80

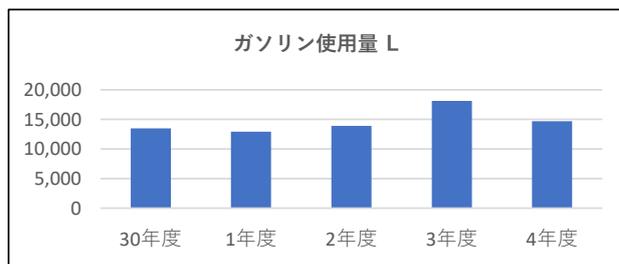
現場通勤の種類やブロック運搬の箇所・種類により左右されるが、2年度より燃費が良くなっている。



ガソリン使用量 (30年度～4年度)

ガソリン使用量	単位	30年度	1年度	2年度	3年度	4年度
事業所	L	13,477	12,926	13,888	18,106	14,703
計	L	13,477	12,926	13,888	18,106	14,703
30年(100)対比	%	100	96	103	134	109

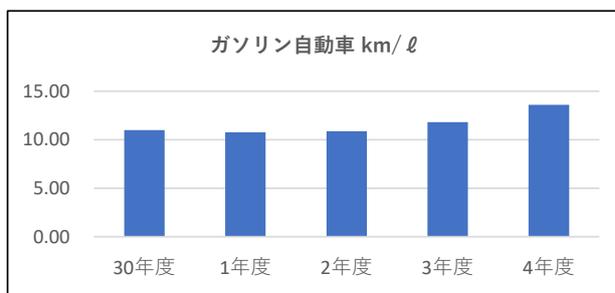
車両台数・現場通勤の種類や距離で変化しますが、ガソリン使用量につきましては増加傾向と考えます。



ガソリン自動車走行距離(燃費) (30年度～4年度)

車両走行距離	単位	30年度	1年度	2年度	3年度	4年度
ガソリン自動車	km/ℓ	11.00	10.75	10.88	11.82	13.58
計	km/ℓ	11.00	10.75	10.88	11.82	13.58
30年(100)対比	%	100	102	101	93	77

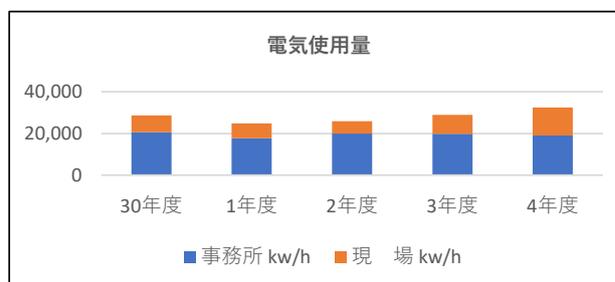
ガソリン自動車走行効率(燃費)は、2年度より燃費が良くなっています。



電気使用量 (30年度～4年度)

電気使用量	単位	30年度	1年度	2年度	3年度	4年度
事務所	kw/h	20,585	17,709	19,939	19,871	19,095
現場	kw/h	8,049	7,070	5,897	9,081	13,426
計	kw/h	28,634	24,779	25,836	28,952	32,521
30年(100)対比	%	100	87	90	101	114

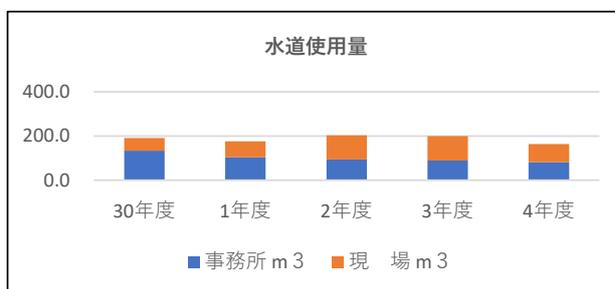
電気使用量は、コロナの影響で換気しながら冷暖房を行ったので、事務所が増えています。現場は工事の受注が影響すると考えます。



水道使用量 (30年度～4年度)

水道使用量	単位	30年度	1年度	2年度	3年度	4年度
事務所	m ³	134.0	104.0	94.0	89.0	82.0
現場	m ³	57.0	72.0	110.0	111.0	82.0
計	m ³	191.0	176.0	204.0	200.0	164.0
30年(100)対比	%	100	92	107	105	86

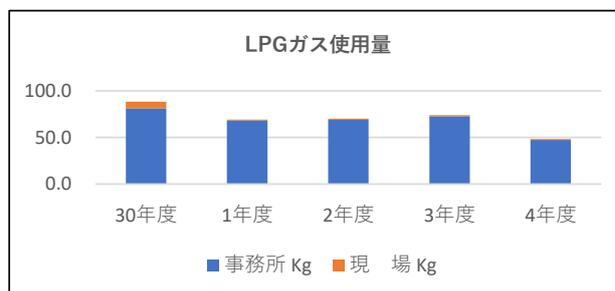
水道使用量は、事務所が若干減らしているが、現場は増えている。



LPG使用量 (30年度～4年度)

LPGガス使用量	単位	30年度	1年度	2年度	3年度	4年度
事務所	Kg	81.5	68.5	69.1	72.7	47.6
現場	Kg	6.9	0.8	1.1	1.3	0.8
計	Kg	88.4	69.3	70.2	74.0	48.4
30年(100)対比	%	100	78	79	84	55

LPGの使用量については数量的に少ないので増減の評価は対象外と考えます。



9. 環境経営計画の実績・取組結果とその評価

1) 二酸化炭素の排出抑制

令和5年5月10日

項目	取組内容	取組結果	評価	見直し
事務所の省エネ活動	空調の適温化を徹底する。(暖房23℃冷房26℃程度)	適温は守られたが、室内換気の関連で増加した。	○	次年度以降も継続
	空調及び照明を必要な区域・時間に限定して行う。	徹底されている。	○	次年度以降も継続
	夜間、休日は、パソコン、プリンター等の主電源は切る。	忘れがちである。	△	習慣化に向けて周知
	ブラインドを利用して室温の調節を行う。	意識しているが、換気のため窓を開放した。	○	次年度以降も継続
	不要な照明の消灯を行う。	忘れがちである。	△	習慣化に向けて周知
自動車等の省エネ活動	エコ運転に配慮する。(急発進・急加速や空ぶかし、待機中のエンジン停止)	徹底されている。	○	次年度以降も継続
	タイヤの空気圧を定期的に確認し、適正値を保つ、機械の不調の修理点検に努める。	徹底されている。	○	次年度以降も継続
	排気ガス・騒音のレベルを抑えるため適正な車輛整備を行う。	徹底されている。	○	次年度以降も継続
建設機械等の省エネ活動	アイドリングストップ等、エコ運転(必要以上回転や空ぶかしを排除する、作業の中断時のエンジンを停止)を徹底する。	徹底されている。	○	次年度以降も継続
	建設機械は作業内容に最も適した機械を採用する。	徹底されている。	○	次年度以降も継続
	建設機械は新規に購入する時に効率や環境負荷等を検討する。	本年度購入なし	○	購入時検討継続
	排ガス対策対応型及び低騒音型リース機械を採用する。	徹底されている。	○	次年度以降も継続
	建設機械等の自主点検整備を行う。	徹底されている。	○	次年度以降も継続

2) 廃棄物の排出抑制、リサイクル、適正処理

紙使用量の抑制	再生紙を使用し、両面印刷、両面コピーを徹底する。	徹底されている。	○	次年度以降も継続
	使用済み用紙の裏紙を利用する。	徹底されている。	○	次年度以降も継続
リサイクルの促進	分別回収ボックスの適正配置により、ごみの分別を徹底する。	徹底されている。	○	次年度以降も継続
	分別後の処理は中間処理業者に適正処理の通達を行う。	徹底されている。	○	次年度以降も継続
	シュレッダーの使用を機密文書等に限る。	忘れがちである。	△	周知徹底が必要
廃棄物等の適正処理	木材、アスファルト・コンクリート塊、汚泥、残土等の建設副産物の削減、再利用、分別、リサイクルに取組む。	徹底されている。	○	次年度以降も継続
	廃棄物管理票(マニフェスト)をもとに廃棄物の適正な処理を確認する。	徹底されている。	○	次年度以降も継続

3) 水資源等の抑制

水資源の節約	事務所の節水に努める。(上水道の使用は水栓をこまめに閉める)	徹底されている。	○	次年度以降も継続
	重機洗車時の節水に努める。	忘れがちである。	△	上水以外の水源を利用

4) 環境保全のための仕組み・体制の整備および教育

環境関連法規等遵守	法規制等の最新情報を常に入手し、改正点等を確認する。	徹底されている。	○	次年度以降も継続
実施体制の構築等	環境経営システムを実行するに当たり、役割分担や責任、権限等を明確にする。	徹底されている。	○	次年度以降も継続
	環境保全活動等の取組みに当たり、担当者、あるいは組織を明確にする。	徹底されている。	○	次年度以降も継続
環境コミュニケーション	環境保全に必要な情報や実績、評価結果等を内部に周知する。	徹底されている。	○	次年度以降も継続
	外部からの意見や苦情、問い合わせ等を受け対応する。	今年度はありません	○	次年度以降も継続
	環境保全活動に積極的に参加する。	徹底されている。	○	次年度以降も継続
従業員等への教育	従業員に環境意識の向上や、環境保全活動に必要な教育を行う。	徹底されている。	○	次年度以降も継続
	安全パトロールに際し環境負荷の低減チェックを行う。	徹底されている。	○	次年度以降も継続

10. 次年度の環境経営目標および環境経営計画

1) 環境経営目標

(1) 年間目標

当社では負荷の実績を考慮し、令和4年4月～令和5年3月までの1年間の負荷を基本値として目標値（1%の削減）を設定します。 制定日R5.6.1

項目		単位	基本値 R4年度 (R4/4-R5/3)	目標値 R5年度 (R5/4-R6/3)
温室効果ガス排出量	二酸化炭素	kg-CO ₂	380,374	376,570
売上当りのCO ₂ 排出量	R3年度売上高934百万円	kg-CO ₂ /百万円	370	366
エネルギーの消費	事務所購入電力	kWh	19,095	18,904
	現場の購入電力	kWh	13,426	13,292
	ガソリン使用量	ℓ	14,703	14,556
	車両走行距離	km/ℓ	13.58	13.72
	軽油使用量	ℓ	128,394	127,110
	重機稼働量	ℓ/h	12.14	12.02
	車両走行距離	km/ℓ	5.81	5.87
廃棄物排出量	一般廃棄物	t	0.31	0.31
	産業廃棄物	t	723.67	716.43
	処分量t/完工高(百万)	t/百万円	0.70	0.69
水資源投入量	上水	m ³	164.0	162.4
化学物質使用量	総使用量	Kg	49.6	実績把握と管理

(2) 中長期目標(令和5年度より3か年)

当社では負荷の実績を考慮し、令和4年4月～令和5年3月までの1年間の負荷を基本値として、中期目標は令和5年4月～令和8年3月まで3年間の負荷削減率3%とした目標値を設定しました。（毎年1%の削減を目標とし3年間で3%の削減を目指します）

制定日R5.6.1

項目		単位	基本値 R4年度 (R4/4-R5/3)	目標値 R5年度 (R5/4-R6/3)	目標値 R6年度 (R6/4-R7/3)	目標値 R7年度 (R7/4-R8/3)
温室効果ガス排出量	二酸化炭素	kg-CO ₂	380,374	376,570	372,767	368,963
売上当りのCO ₂ 排出量	CO ₂ の排出量/売上高	kg-CO ₂ /百万円	370	366	363	359
エネルギーの消費	事務所購入電力	kWh	19,095	18,904	18,713	18,522
	現場の購入電力	kWh	13,426	13,292	13,157	13,023
	ガソリン使用量	ℓ	14,703	14,556	14,409	14,262
	車両走行距離	km/ℓ	13.58	13.72	13.85	13.99
	軽油使用量	ℓ	128,394	127,110	125,826	124,542
	重機稼働量	ℓ/h	12.14	12.02	11.90	11.78
	車両走行距離	km/ℓ	5.81	5.87	5.93	5.98
廃棄物排出量	一般廃棄物	t	0.31	0.31	0.30	0.30
	産業廃棄物	t	723.67	716.43	709.20	701.96
	処分量t/完工高(百万)	t/百万円	0.70	0.69	0.69	0.68
水資源投入量	上水	m ³	164.0	162.4	160.7	159.1
化学物質使用量	総使用量	Kg	49.6	実績把握と管理		

※ 購入電力のCO₂排出係数は 令和3年度実績（R5/1/24公表）東京電力(株)調整後排出係数0.457kg-CO₂/kWhとする。

2) 次年度環境経営計画

(R5.4.1～R6.3.31)

【R5年度】 環境経営計画表 (R5年度取組)				4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
具体的環境活動目標		責任者	担当者													
1) 二酸化炭素の排出抑制																
事務所の省エネ活動	空調の適温化を徹底する。(冷房26℃程度、暖房23℃程度)	大石	全員													結果を把握する
	空調及び照明を必要な場所・時間に限定して行う。	大石	全員													年間を通じて取り組む
	夜間、休日は、パソコン、プリンター等の主電源は切る。	大石	全員													年間を通じて取り組む
	ブラインドを利用して室温の調節を行う。	大石	全員													購入電力200Vを削減する
	不要な照明の消灯を行う。	大石	全員													年間を通じて取り組む
自動車等の省エネ活動	エコ運転に配慮する。(急発進・急加速や空ぶかし、待機中のエンジン停止)	大石	全員													年間を通じて取り組む
	タイヤの空気圧を定期的に確認し、適正値を保つ、機械の不調の修理点検に努める。	大石	全員													年間を通じて取り組む
	排気ガス・騒音のレベルを抑えるため適正な車輛整備を行う。	大石	全員													年間を通じて取り組む
建設機械等の省エネ活動	アイドリングストップ等、エコ運転(必要以上な回転や空ぶかしを排除する、作業の中断時のエンジンを停止)を徹底する。	大石	現場従事者													年間を通じて取り組む
	建設機械は作業内容に最も適した機械を採用する。	大石	現場責任者													年間を通じて取り組む
	建設機械は新規に購入する時に効率や環境負荷等を検討する。	大石	環境管理事務局													購入時検討
	排気ガス対策対応型及び低騒音型リース機械を採用する。	大石	現場責任者													年間を通じて取り組む
建設機械等の自主点検整備を行う。	大石	現場責任者													年間を通じて取り組む	
2) 廃棄物の排出抑制、リサイクル、適正処理																
紙使用量の抑制	再生紙を使用し、両面印刷・両面コピーを徹底する。	依田	全員													年間を通じて取り組む
	使用済み用紙の裏紙を利用する。	依田	全員													年間を通じて取り組む
リサイクルの促進	分別回収ボックスを適正に配置し、ごみの分別を徹底する。	依田	全員													年間を通じて取り組む
	シュレッダーの使用は機密文書等に限る。	大石	全員													年間を通じて取り組む
廃棄物等の適正処理	木材、アスファルト・コンクリート塊、汚泥、残土等の建設副産物の削減、再利用、分別、リサイクルに取り組む。	大石	現場責任者													年間を通じて取り組む
	廃棄物管理票(マニフェスト)をもとに廃棄物の適正な処理を確認する。	大石	現場責任者													年間を通じて取り組む
3) 水資源等の抑制																
水資源の節約	無駄な水の使用を無くす。(上水道の使用は水栓をこまめに閉めて、節水に努める)	大石	全員													年間を通じて取り組む
	重機洗車時の節水に努める。	大石	現場従事者													年間を通じて取り組む
4) 環境保全のための仕組み・体制の整備および教育																
環境関連法規等遵守	法規制等の最新情報を常に入手し、改正点等を確認する。	依田	環境管理事務局													年間を通じて取り組む
実施体制の構築等	環境経営システムを実行するに当たり、役割分担や責任、権限等を明確にする。	依田	環境管理事務局													
	環境保全活動等の取組みに当たり、担当者、あるいは組織を明確にする。	大石	環境管理事務局													情報伝達については徹底する
環境コミュニケーション	環境保全に必要な情報や実績、評価結果等を内部に周知する。	依田	環境管理事務局													定期的な伝達
	外部からの意見や苦情、問い合わせ等を受け、対応する。	大石	環境管理事務局													
	環境保全活動に積極的に参加する。	依田	環境管理事務局													
従業員等への教育	従業員に環境意識の向上や、環境保全活動に必要な教育を行う。	大石	環境管理事務局													定期的な開催
	安全パトロールに際し環境負荷の低減チェックを行う。	大石	環境管理事務局													安全パトロールの同行は確実に実施する

11. 環境関連法規などの遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、控訴などの有無

1) 環境関連法規などの遵守状況の確認及び評価の結果

令和5年6月20日確認：環境管理責任者

法規制等の名称	法・規則・細則・規定・省令	適用内容・遵守事項	頻度	遵守評価
建設業法	法第3条	建設業の許可・更新（有効期限R9年2月14日）	その都度	-
廃棄物処理法	法第12条	収集運搬業者及び処分業者との委託契約締結	その都度	○
	規則第8条の4の3	委託契約書の保管	その都度	○
	法第12条の3、12条の5	マニフェストの管理・保管（5年間）※電子マニフェスト使用	その都度	-
	法第12条の3第7項	産業廃棄物管理票交付等状況報告書の提出※電子マニフェスト使用の為不要	6月中	-
	規則第8条	保管基準（掲示板表示）	その都度	○
	法第12条9項	多量排出事業者（年間1000 t 以上）の処理計画書の提出	必要時	該当なし
廃棄物処理法 （収集運搬）	法第14条	収集運搬業の許可・更新（有効期限R9年6月6日）	その都度	○
	法第12条	排出事業者との委託契約締結	その都度	該当なし
	規則第8条の4の3	委託契約書の保管	その都度	該当なし
	法第12条の3、12条の5	マニフェストの管理・保管（5年間）※電子マニフェスト使用	その都度	該当なし
	施行細則第22条	産業廃棄物運搬状況報告書の提出	6月中	○
騒音規制法	法第14条第1項	特定建設作業の実施の届出、規制基準遵守	その都度	該当なし
振動規制法	法第14条第1項	特定建設作業の実施の届出、規制基準遵守	その都度	該当なし
排出ガス対策型建設 機械の普及促進に関 する規定	規定第1条	対象建設機械の排ガス対策型機械の使用	その都度	○
建設リサイクル法	法第10条	対象建設工事の届出書の提出	その都度	該当なし
	法第5条第2項	再生資源の十分な利用	その都度	○
	法第9条	廃棄物の分別、減量、リサイクルの促進、適切な処理	その都度	○
指定副産物使用促進 省令	省令第7条	再生資材の利用計画及び実施情報の作成・登録	その都度	○
	省令第7条	建設副産物の搬出計画及び実施情報の作成・登録	その都度	○
フロン排出抑制法	第16条	対象機器の簡易定期点検（簡易点検記録を廃棄後3年間保管する）	その都度	○
	第16条	対象重機の簡易定期点検（簡易点検記録を廃棄後4年間保管する）	その都度	○
家電リサイクル法	法第6条	指定機器のリサイクル適正管理（指定業者への処理依頼）	その都度	該当なし
PCリサイクル法	法第4条	指定機器のリサイクル適正管理（指定業者への処理依頼）	その都度	該当なし
自動車リサイクル法	法第8条、法第73条	車両の廃車時に適正管理（指定業者への処理依頼）	その都度	○
グリーン購入法	法第5条	環境物品等の購入	その都度	○
消防法	法令遵守	アルコール類 400ℓ×1/5 以下の保管 【表示が必要】	その都度	○

2) 環境関連法規への違反及び控訴の有無

一年間を通じて、環境関連法規及び条例を事業所、建設現場ともに遵守しており、違反はありません。
また、地域住民からの苦情、及び関係当局より違反等の指摘、訴訟も過去3年間ありませんでした。

12. 環境事故対策と訓練状況

環境事故の対策として「環境事故 緊急対応手順書」に基づく、環境事故対策の訓練として、手順書の内容に基づき、「緊急連絡」、「油流出事故対策訓練」をダイエー工業株式会社前田作業所において180tクレーン分解整備中に実施した。

訓練は「機械分解時の油流失事故の発生」との想定で、「緊急事故の状況把握」、「緊急時の使用資材の搬送」、「油吸着材・中和剤を使用する上での方法の説明」、「対策作業の注意事項」等の訓練を実施した。

《訓練状況報告》 令和5年3月29日（水）

- 13：00 現場大石監督より油流失の緊急連絡あり、状況を把握する。
- 13：05 環境担当者：伊藤より望月部長に連絡し作業班へ指示を依頼する。
- 13：15 前田作業所より事故発生現場に作業員4名と緊急資材が搬送される。
- 13：25 本社より環境担当者：伊藤が到着する。
- 13：30 事故状況の報告と拡散防止と対応の作業訓練を開始する。
- 13：35 望月部長が緊急資材の使用と対応作業上の注意点を説明する。
- 13：50 大石 E A 21環境責任者より訓練の総括を講評する。

評価：①伝達訓練は非常に順調でした。

②油流失事故の状況について報告は的確でした。

③前田作業所より緊急資材の搬送は順調な行動が出来た。

④油吸着材・中和剤の使用上の説明と拡散防止作業の注意点は的確でした。

後日、社長より全社会議において、訓練の講評をいただき、絶対に環境事故を起さない、また、有事には迅速な事故対応を行うことと、申し渡されました。

今後も油の吸着材や中和剤の更新する時期に合わせて、訓練を計画する。

油の吸着材及び中和剤の的確な使用方法と使用作業の注意点を全社員に徹底する。

緊急使用資材



訓練状況写真



13. 代表者による全体の評価と見直し・指示

作成 令和 5年 6月 29日
大石 文文

項目		確認 : (必要に応じて評価・コメント記載)
1 ・ 見 直 し 関 連 情 報	1 エコアクション21文書	<input checked="" type="checkbox"/> 記録・文書として製作しました。
	2 環境目標及び目標達成状況	<input checked="" type="checkbox"/> CO ₂ 排出量は減少,電気は増加、燃料は減少
	3 環境活動計画及び取組実施状況	<input checked="" type="checkbox"/> 継続して取り組みます
	4 環境関連法規要求一覧及び遵守状況	<input checked="" type="checkbox"/> [文書・記録]に記載の通りです
	5 外部コミュニケーション・対応記録	<input checked="" type="checkbox"/> 外部からの苦情はありませんでした
	6 問題点の是正・予防措置の実施状況	<input checked="" type="checkbox"/> 別紙にて報告します
	7 取引先、業界、関係行政機関、その他の外部動向	<input checked="" type="checkbox"/> 特にありませんでした
	8 その他 ()	<input type="checkbox"/>

2 ・ 代 表 者 に よ る 全 体 評 価 ・ 見 直 し 指 示	<p>持続可能な地球の環境を守るため、温暖化による昨今の異常な気候変動を考えるにあたり、当社はエコアクション21へ取組み、環境経営システムへの中心と考えて推進を続けてまいりました。今期から国連が提唱する「SDGs (持続可能な開発目標)」に賛同し、持続可能な社会の実現に向けて取り組んでまいります。</p> <p>さて、当社の環境負荷に関し、二酸化炭素排出量は軽油の使用量による割合が約87%を占めています。さらに、ガソリン使用によるCO₂排出量 (9.0%) 加えると、化石燃料による環境負荷が非常に大きく関わります。</p> <p>環境経営システムでは目標の設定で、軽油とガソリンの使用量の削減こそが最大の課題と位置付けてきました。この化石燃料の削減は経営上においても経費の縮小に大きく関わると考えています。</p> <p>また、産廃の排出量については、元請工事の数や工種により増減が大きく変化し評価の判断に苦慮します。今期の環境負荷は、完成工事高は約10%増加しましたが、昨年より22.3%減少しました。</p> <p>重機の機種選定や効率化を進め、燃料の削減は重要な環境経営の課題であり、強く指示していきます。なお、上水及び電力等の使用量の削減、一般廃棄物の削減に努力し、環境へのコミュニケーション活動は全社員に積極的な取組を続けることを重ねて指示します。</p> <p>次期へ向けては建設機械の「軽油使用量の削減、代替軽油の検討、機種選定の厳選、効率的な工法の選択」を強く推し進めます。</p> <p>また、廃棄物の減少に対し「資源を節約する3R運動・モノを大切に4S運動」自ら率先します。本社のエアコンの改修やLED照明を更新し、車両の省エネ等への持続可能な社会の構築に向けた意識高揚を図り、産業廃棄物の削減や資源の有効利用の促進を環境責任者に強く指示します。</p> <p>私も自ら先頭に立ち、『環境経営』を率先して推進するとことを全社員と共に約束いたします。</p> <p>まとめに当社の最重点課題である、「化石燃料使用量の低減に努め、効果的な環境経営システム運用を促進し、CO₂削減を徹底します」社員に対し強く指示します。</p> <p style="text-align: right;">令和5年6月29日 ダイエー工業 株式会社 代表取締役 飯田 昌昇</p>		
	見直し項目	変更の 必要性	「有」の場合の指示事項等
	1 環境方針	有 <input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/>	「グリーン購入の推進」記載削除
	2 環境目標	有 <input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/>	グリーン購入項目削除
	3 環境活動計画	有 <input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/>	グリーン購入項目削除
	4 環境に関する組織	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>	
	5 その他のシステム要素	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>	
	6 その他 (外部への対応)	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>	